

平成14年度 公共事業再評価調書（広域営農団地農道整備事業）

（事業着手後 5年以上経過し継続中の事業）

評価確定日	平成14年11月27日
所管部課名	農林水産部 農山村振興課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点																															
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果																																
<p>[ 地区名 ] 仙北北部第2</p> <p>[ 所在地 ] 仙北郡協和町 河辺郡河辺町</p>	<p>[ 事業の目的 ] 本地区は、国道46号線沿いの協和町横道地内を起点に、広域農道秋田中央地区の河辺町大張野地内を終点とする14.3kmの広域農道である。既設道路として国道13号線、46号線の幹線道路、さらには集落間に県道、町道が配置されているが、農用地間を有機的に結ぶ農道は皆無であり、大きく迂回することを余儀なくされている。本計画路線が整備されることにより仙北西部地区広域営農団地整備計画で策定された施設計画・営農計画が実現することになる。さらに、農産物の輸送条件が整うことで県内外への食糧の安定的供給が可能になり、農業生産性も向上し、農業所得の増大にもつながる。また、観光開発等の間接的波及効果も期待できることから、農村地域活性化のために必要な事業である。</p> <p>[ 総合計画上の位置付け ] 「あきた21総合計画」 施策名 快適で生き生きした農村づくり 施策内容 基幹的農道の整備 施策目標 前期(H12~H14) 県営農道整備 40km</p> <p>[ 事業の内容 ] 農道整備事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増減</th> <th>理由等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長</td> <td>13.8 km</td> <td>14.3 km</td> <td>0.5 km</td> <td>路線精査の結果</td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>6.0(8.0)m</td> <td>6.0(8.0)m</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>9,280百万円</td> <td>9,124百万円</td> <td>156百万円</td> <td>労務・資材費の低下</td> </tr> <tr> <td>事業期間</td> <td>H9~H18</td> <td>H9~H17</td> <td>1年</td> <td>進捗状況から短縮が可</td> </tr> </tbody> </table> <p>[ 採択関係 ] ( )は過疎、山振、半島、急傾斜地域 受益面積 1,000ha(300ha)以上 延長 10km(5km)以上 車道幅員 5.0m(4.0m)以上 農業交通量が過半以上</p>	項目	計画時	再評価時	増減	理由等	延長	13.8 km	14.3 km	0.5 km	路線精査の結果	幅員	6.0(8.0)m	6.0(8.0)m	-		事業費	9,280百万円	9,124百万円	156百万円	労務・資材費の低下	事業期間	H9~H18	H9~H17	1年	進捗状況から短縮が可	<p>[ 事業の経緯 ] H9 事業採択 調査・測量 300百万円 10 舗装工 62m 2,345 〃 11 〃 125m 1,500 〃 12 〃 3,566m 1,937 〃 13 〃 1,963m 1,257 〃 14 〃 642m 473.6 〃 計 6,358m 7,812.6 〃</p> <p>[ 進捗状況 ] H14 未投資済事業費 7,812百万円(85.6%) 一部供用延長(予定) 5.2km(36.4%)</p> <p>[ 次年度以降計画 ] H15以降 百万円 9.1km 1,311.4</p> <p>[ 長期継続の理由 ] 当初から山間地を通過しながら、農地を連絡する路線で施工延長も長いことから、10年間の事業期間を見込んでいたが、工事が順調に進捗し、1年早く完成する予定である。</p>	<p>[ 社会経済情勢の変化 ] 事業採択時から再評価実施までの周辺環境の変化 ・この路線の南側に位置する仙北北部地区広域農道が平成13年度に完成したことで、秋田中央地区広域農道への早期接続、全線開通の期待が高まっている。</p> <p>[ 地元の意向 ] 用地買収も順調に推移し、早期全線供用が要望されている。</p> <p>[ 環境対策 ] 平成9、11年度に道路環境調査及び猛禽類調査により確認。 普通に生息する鳥類は認められたがオオタカ、クマタカ等は認められず、林相からも繁殖は認められない。 農道工事に際しては、土砂流出防止のための沈砂池を設置したり、切土面や盛土面には緑化法面保護を施工するなどの対策を図って、環境に配慮した事業を実施している。</p>	<p>[ 整備効果 ] 今年度一部供用することにより、農作物の輸送経費の軽減ならびに荷傷みの防止が図られ、農村環境の改善に寄与できる。</p> <p>[ 費用の変化 ] 労務費、資材費が下がったことにより、総事業費は低下している。 当初事業費比 0.98</p> <p>[ 効果の変化 ] 効果が変化する要因は特になし。</p> <p>[ 費用対効果 ]</p> <table border="1"> <tr> <td>計画時</td> <td>1.23</td> </tr> <tr> <td>再評価時</td> <td>1.23</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00以上</td> </tr> </table>	計画時	1.23	再評価時	1.23	採択基準	1.00以上	<p>[ 事業進捗の見込み ] 橋梁等の主要構造物も順調に施工してきており、15~16年度で未供用部分9.1kmの路盤・舗装工事を終え、最終の17年度には安全施設等を整備して計画より1年早く完成する予定である。</p> <p>3 コスト縮減や代替案立案等の可能性の観点</p> <p>[ コスト縮減の可能性 ] 残事業については、掘削残土の他事業(道の駅造成工事)への流用、再生アスファルトの使用、法面保護に安価な新工法の採用等によりコスト縮減を図りながら、事業の進捗を図る。</p> <p>[ 代替案立案の可能性 ] 特になし。</p>
項目	計画時	再評価時	増減	理由等																																
延長	13.8 km	14.3 km	0.5 km	路線精査の結果																																
幅員	6.0(8.0)m	6.0(8.0)m	-																																	
事業費	9,280百万円	9,124百万円	156百万円	労務・資材費の低下																																
事業期間	H9~H18	H9~H17	1年	進捗状況から短縮が可																																
計画時	1.23																																			
再評価時	1.23																																			
採択基準	1.00以上																																			
再評価の結果		対応方針(案)及びその理由		公共事業評価専門委員会の意見																																
<p>継続・中止</p>		<p>[ 対応方針(案) ] 当初計画より1年短縮して、平成17年度の完成、供用を図る。</p> <p>[ 理由 ] 全体延長14.3kmのうち、5.2kmは今年度供用を開始する。また、未供用区間の主要構造物も順調に施工してきており、今後は残り9.1kmの路盤工・舗装工を施工し、最終の17年度に安全施設等の整備をすることにより、全線供用が可能である。</p>		継続は妥当と認める。																																